

学校通信

強い綱

2014年4月号
新版 第65号
編集
駿台甲府高等学校
駿台甲府中学校
駿台甲府小学校

力士の日本語

高等学校校長 酒井徹哉

新年度を迎えて

第一学期がスタートしました。駿台甲府では、各学校ともほぼ定員通りの入学者をお迎えすることができましたことは、皆様方のご理解とご支援の賜物として、御礼申し上げます。

本年度、役職者に若干の異動がありました。小学校校長に坂本宏行副校長が昇任、副校長には高等学校より内藤真一教諭が昇任、高等学校副校長には八田政久教諭が昇任しました。なお、これまで小学校の校長を務められた石川博先生は、駿台甲府小中高等学校の指導監として、小中高全体にかかわる業務や教員の指導に当たっていただくことになりました。その他に、数名の新任の先生方をお迎えし、中高間で若干の異動がございます。新たな体制で学校運営に努めてまいりますのでよろしくご願ひ申し上げます。

角界の話から

今年の大相撲春場所が優勝した鶴竜が、横綱に昇進した。控えめで礼儀正しく、ストイックな印象を受ける力士で、地味な存在であるが今後が期待される。彼は、モンゴル出身。入門した二〇〇一年の時点では、体重が六五キログラムしかなかったというから驚く。モンゴル語、日本語のほかに、英語とロシア語も話す。語学力は相当なものである。

モンゴル出身力士の旭天鵬、彼は一九九二年に來日したモンゴル六人衆の一人、モンゴル人力士第一期生で最後の現役力士である。三十九歳の今も元気に頑張っている。彼は、相撲の力量も評価されるが、もう一つ日本語のうまさも高い評価を得ている。会話を聞いていると、ほとんど日本人と変わらない。彼は、標準語のほか関西弁も話せるらしい。

なぜか日本語が上手

旭天鵬や鶴竜に限らず、外国人の力士は概して日本語が上手である。モンゴル語と日本語は、同じウラル・アルタイ語系なので、発音が楽だという説もあるが、母語が英語やスペイン語などの力士も、かなり上手である。KONISHIKI(元小錦)の日本語もかなりの域である。外国人にありがちな、動詞の連体形に「です」を付けてしまう誤用(「食事に行くです」や「映画を見るです」など)も少ない。その日本語のうまさについて、早稲田大学教授の宮崎里司先生^{注1)}はこう分析している。

①「通訳に頼らない」この逆がプロ野球の選手である。

②「様々な人との接触、二十四時間日本語漬け」親方、兄弟子、おかみさん、タニマチ、床山、近所の人々など、様々な立場、年齢層と一日中話さざるを得ない

③「強い動機」日本語ができなくては相撲界で生きていけない

他にもいくつか挙げているが、特におかみさんの存在が大きいようである。一日中日本語環境にいと、当然いくつもの単語や言い回し

を覚える。それを使う、時に誤用がある。すると、おかみさんはすぐにそれを指摘して直させる。普通なら多少の誤用は外国人だからと見逃すが、おかみさんはそれをしない。必ず正しい日本語に直す。この妥協しない指導法が功を奏している。おかみさんから、第二の母語のように教わっているのである。

力士の多くが失敗談を覚えている。兄弟子にタメ口を使ってしまいひどく怒られた、女性に男言葉を使って怖がられた等、間違いを覚えているということは、二度としないということになる。

イマージョン教育

二十四時間日本語漬けということは、言い換えればイマージョン状態にある。イマージョンというのは、言語を習得する際にその言語漬けにすることである。学校において導入する場合は、たとえば英語を習得するために、授業や活動を英語で行うことになる。目的や実情に応じて、完全に英語であったり、部分的に母語を用いたり、両言語を同時に使用するなど、様々なパターンがある。

もともとは、二言語地域や、国境付近における隣接言語などの習得を目的としてはじめられたようである。日本でもいくつかの私立学校が英語のイマージョン教育を取り入れている。第二言語の習得としては効果的かもしれないが、実施に当たってはかなりハードルが高い。実は、私も十数年前、静岡県のある私学でこれを導入するのにあたり、地理の教科書の翻訳に関わったことがあるが、その手間たるや想像を絶するものであった。

柔軟性のある若者であれば、外国に渡航して現地の人々の中で暮らせば、まず日常生活レベルの言語能力は身に付く。イマージョン状態の結果である。しかし、現地の人々と同レベルかというところは違うと思う。日本で活躍する外国人のなかにも、日本語が達人な人は

多いが、やはり外国人の日本語なのである。聞けば分かる。

文化としての言語

力士の場合も、生活の場そのものがイマージョンである。したがって日本語が上達するのは当然であろうが、外国人の日本語の域を超え、日本人の日本語に限りなく近い。それはなぜなのかと考えてみた。

一般の人の場合、コミュニケーションツールとしての言語は、意志疎通ができればそれでよい。日常会話やビジネス会話ができれば生活できるわけで、それ以上はあまり上達しないのではないだろうか。

相撲の世界というのは日本の伝統文化の世界である。相撲教室やそれぞれの相撲部屋の中で、彼らはその日本文化を学んでいく。言葉を単にコミュニケーションツールとして習得するのではなく、相撲という自らの職業で出世するための、絶対的に必要なスキルでもある。相撲の技を学ぶのと同じことなのである。

外国人力士の経験談の中に、日本の食事をたくさん食べた、最初は口に合わなかったが我慢して一生懸命食べたという話が多い。力士としての体を作るための栄養源としての価値があるが、それだけではない。日本の食文化に浸ることは、日本文化を理解していく助けになる。

言語も文化の一部である。したがって、彼らが日本語を覚え、上達するということは、日本文化を理解することになる。すでに異文化理解の域を超え、第二の文化として受け入れているのである。文化として習得した言語は、限りなくネイティブの言語に近づくと感じられた。

^{注1)}宮崎里司(二〇〇二)『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』明治書院

高校より

指導監 石川博

本校の校是は、「チャレンジング・スピリット」と「愛情教育」です。それらをどう具現化していくのか。生徒に、失敗しても大丈夫だよ、と伝え、実際に支え、励ますこと。そうやってチャレンジする気持ちを持ってようと思えます。そして、我々もチャレンジする姿勢を持ち続けることが大事でしょう。また、「愛情教育」は教職員の服膺すべき信条ですが、同時に、子どもたちにも考えさせたい。友だち、家族と協力することが、社会での人間関係を築く基礎になります。保護者の皆様にもご協力いただければ幸いです。

副校長 上原雅志

若い頃、色々な人を見て、思いました。本物はあつからかんといつも楽しんでいない。悲壮な顔の人間はどうもあてにならない。直感がそう教え、経験からも同じことを学び、それは大方外れることがないものだと今も感じています。自分自身はというと、無用に眉間にしわを寄せていることが多いようで反省することばかりですが、学び教え合う仕事場で働ける喜びをかみしめつつ、今年があつからかんと楽しく授業、仕事に打ち込みたいと念じています（自他の幸福のため）。強い顔をしていただけよう。今年もよろしくお願ひ致します。

副校長 八田政久

校庭の桜が満開のなか、大勢の新入生を迎え、新しい年度がスタートできることに大きな喜びを感じております。自分自身も駿台甲府高校で28回目の春を迎え、新たなスタートに身の引き締まる思いです。この27年間、高等学校で生徒とともに多くのことを学んできました。その中で、大切に思ったことは、「教育とは、釣った魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えること」ということです。自分自身も初心に帰り、次の時代に繋いでいきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。

副校長 斉藤豊美

今年の入学式は、ベストタイミングの満開の桜で彩られました。少し肌寒い空気の中で、真っ青な空と残雪の山々を背景に、桜花の色がくつきりと映えていました。思わず、「素晴らしいねー」、そして「おめでとう！」という言葉が出ました。昨年の夏は記録的な暑さ、半年後の冬には記録的な積雪を経験しました。そのような環境の中で、努力して迎えた入学であり新学年です。自然の厳しさに耐え、将来の夢に向けて努力した生徒全員への、自然からのご褒美・祝福であると感じます。今年もまた、生徒諸君の将来に向けたチャレンジを、懸命に誠実に支援してまいります。どうぞよろしくお願ひ致します。

美術デザイン科学科長 岡田昭夫

新学期が始まり、寂しかった校舎が一挙に賑やかになりました。一斉に花が咲き、あつという間に上着なしでも過ごせる良い季節になっていきます。美術デザイン科も新入生25名を迎え、今年は74人。楽しく、充実した学校生活を過ごしてほしいと思います。それには、やはり主体的に頑張ることが大切です。私も生徒たちと共に研鑽に励みたいと思っております。皆様もぜひ学校に関心を持っていただき、ご協力をお願い致します。

教務主任 斉藤雅夫

現在、世界地図の国境線が変わってしまふような事件が起こっています。それまでは異なる民族でも平和に暮らしていたのに・・・民族独立という「正義」の下で異なる民族同士が敵対し、憎み合う・・・今起きている世界史の出来事をぜひ保護者の皆様は、ご家庭で話題にしてみてください。味・関心を高め、ひいてはやる気スイッチをONすることにつながるかなど。何のために勉強するの？と問われたら、人々が安心して暮らせる理想社会建設のためだと恥ずかしくなく言いたいものです。御入学、御進級、おめでとうございませう。

生徒指導部主任 半田博志

昨年に引き続き生徒指導部主任になりました半田博志と申します。進学・進級・就職などで各家庭におかれましてはこれまでとは違った新しい朝を迎えられたことでしょうか。早速ですが以下の点、保護者の皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。①お子様が自力で床を離れているか？保護者の手を煩わせてはいないか？②身なり、特に女子のスカート丈は適当な長さであるか？ 極端に短かったりしないか？ また、男子のズボンの穿き方は適当であるか？ 極端に下げてはいないか？ 1日の目覚め方と自らの形によって創られるリズム感が大切です。

進路指導部主任 小笠原理

2年間連続で3学年の担任をしてきました。今年は進路指導主任を務めます。小笠原です。よろしくお願ひ致します。早速ですが、生徒・保護者の皆様への提言です。いろいろな大学のHP（ホームページ）をブックマークしましょう。今、ホームページを通じていろいろな情報が発信されています。大学のHPを定期的に見ることで、最新の入試情報も得られますし、何より、大学で学びたいというモチベーションが高まってくると思います。

入学広報部主任 筒井揚介

入学広報部は、駿高で学ぶ魅力アピールし、多くの中三生に駿高の門をたたいてもらえるように案内していく部署です。今年度も六月二十九日（日）の「第1回学校説明会」を皮切りに、八月の「体験入学」、九月の「スポーツクラス体験入学」、十一月は「学校説明会」に「県民の日オープンキャンパス」さらに「入試説明会」と、駿高に足を運んでもらうように多くのイベントを予定しています。「愛情教育とチャレンジング・スピリット」を中学三年生に広めるべく努めてまいります。近所の受験を控えた中学生にご案内いただけると幸いです。

一学年主任 嶋津由希

駿台甲府高校に入学するということは、何か大きな夢や目標を達成したいということでもあると思います。将来の進路を切り開きたいという思いはもろろのこと、自分自身の中のある壁のようなものを乗り越えていきたいという、より身近な思いもあるでしょう。是非その夢や目標、思いを叶えてほしいと思えます。そのためには成長しなくてはなりません。では、成長するためにどうしたらいいのでしょうか。共に「考えて」いきましょう。

二学年主任 羽田昌樹

2学年と聞くと「高校生活にも慣れ、本番まではまだ時間がある」と、緩やかなイメージを持たれるかもしれませんが、実際はそのイメージとは異なり、高校生活の「中心」となる学年です。生徒会活動や学校行事では、中心となって活動します。多くの部活動において、2年生が夏までには最上級生となり、新チームの中心となります。「中心」は「根幹」とも言えます。しっかりと根をはって、幹を太くし、高校生活の充実と本番の成果につなげて欲しいと思います。

三学年主任 後藤和利

最終学年を迎えました。受験と言っても特別なことはありません。大事なことは知らないことを「謙虚に学習すること」です。知らないことやできないことを、知ろう、できるようならうという意識を持つて学習しましょう。謙虚に学習すれば必ず伸びていきます。学習は授業を中心に。ノートはたくさん書きましょう。自分の努力が詰まったノートを積み重ねてみましょう。その量が君の自信を後押ししてくれます。

学校通信「強い網」について

東京大学医学部教授の北村聖氏が、医学部の学生の教育について次のように述べました。「我々は、東大医学部生には、より多くの獲物を持たせて旅立たせるのではなく、より強い網（あみ）を持たせて旅立たせることに決めた。」本校生徒にも、将来「強い網を備えた人物」となって、世界で活躍して欲しいとの願いを込めて、前校長の山口博伸先生が学校通信にこの名称を冠したことに由来します。

中学校より

中学校校長 河崎哲郎

「ご入学」ご進級おめでとうございます。子供の成長は早いもので、あっという間に月日は過ぎてしまいます。しかし、そう感じているのは親や教員である大人であって、当の生徒は、恐らくその大半が日々様々な新たなことに遭遇し、泣いて笑って、時に深く感動し時に悩み苦しみながら、それなりのストレスを抱えて毎日を通しています。今年もそんな生徒たちをしっかりとサポートして行きたいと思えます。

小林一三考

この春大阪を訪ねる機会がありました。大阪に関わりのある山梨県人というところまで小林一三が思い浮かびます。甲州財閥の根津嘉一郎は東武鉄道に貢献しましたが、小林一三は大阪で阪急電鉄を作り、宝塚歌劇団やオリックスの前身である阪急ブレーブス、その他関連の百貨店や住宅販売など幅広く事業を展開しました。おりしも今年には宝塚歌劇団一〇〇周年で盛大なセレモニーが行われました。私は特に興味はありませんが熱烈な女性ファンが多いことは知っています。女性だけで演じられる演劇でこれだけ根強い人気があるものは他にあまり例がありません。小林一三本人ですら一〇〇年という長きにわたってこれだけの人気を博し続けることができるなどとは当時思っていないなかつたことでしょう。また彼は美術収集家、茶人としても有名で、そのコレクションを集めた美術館があります。彼の雅号を取って逸翁美術館と名づけられています。小林一三記念館も逸翁美術館の近くにあり、宝塚へ向かう途中に池田駅という駅があるのですが、その駅を降りて少し歩くと逸翁美術館と小林一三記念館があります。池田から宝塚にかけて電車の車窓から見える

景色は甲府盆地から見える風景に少し似ていました。盆地ではないので四方を山に囲われているわけではないのですが、その景色を一部分切り取ったような感じ、と言ったらいのではありませんか。山梨のように高い山はないのですが、山が切れ目なく連なっています。少し七里岩あたりの景色に似ているような気がします。そしてその山々に沿って鉄道が走っています。小林一三がこの地に鉄道を敷いて娯楽のための歌劇団を作り人の住む街を作ろうと思ったのはどこか故郷の原風景と共通するものをそこに見出したからなのではないかと思えました。小林少年が葎崎の町から毎日見ていた景色と宝塚辺りの景色は重なり合っていたのではないかと。私は阪急電車に乗りながらそんなことを思いました。実際に彼の中にそういう思いがあつたかどうかはわかりませんが、今となっては直接聞くこともできませんし、今となっては意識していません。ですが、彼の記憶の中にある原風景が彼を宝塚の地へ連れて行ったのに違いないという確信のようなものを感じました。

誰しも心の中に懐かしいと思える風景があると思います。それを原風景というのでしょうか、それは育った場所が同じであつたとしても一人一人違っているのだと思います。その人の感じ方によって印象の強いものが風景となつて作りあげられるのでしょう。そう考えると駿中で過ごす3年間も生徒達の原風景が作られていくのに大きく影響するのかもしれない。生徒一人一人の心の中に心地良い原風景が作られていくような学校生活であるように努めていきたいと思つています。

ある科学者の言葉から

二月二日に行われた読売新聞社主催のノーベル賞受賞者を囲むフォーラムでノーベル物理学賞を二〇〇七年に受賞したドイツのペーター・グリュンベルク氏が基調講演をしています。ロシア人の父を持ち、チ

エコで生まれてドイツに移った物理学者で、ハードディスクなど記憶装置の小型化、大容量化につながる「巨大磁気抵抗効果の発見」でノーベル物理学賞を受賞しています。幼少期は、どんなおもちゃもまず分解しなければ気がすまない子供だったとのこと。大学進学前の九年間の中等教育機関(日本の小学校高学年から高校)の間は勉強だけでなく、ボイスカウトに入ったり仲間と自転車でアルプスに行ったりと様々な活動をして、スキーや劇や音楽も楽しんだということ。その信条はその後も変わらなかつたそうです。現在も研究の傍ら音楽を楽しんでいてベルリンのホールでは「物理学と音楽」というテーマでギターの演奏をしたということ。人生では様々な場面で意思決定を迫られることがある。勉強に限らず、いろいろな経験をすれば、それだけ適切な判断ができる。」と彼は言っています。このことはまさに常々私が感じていることでもあります。心の柔らかい若い時期にいろいろな経験をしておくことはとても大切で、グリュンベルク氏の言う通りだと思えます。

以前何かの本で読んだのですが(出典がわからずすみません)、子供が言語を習得していく過程でなされた調査によると、外でよく遊ぶ子供と家にいることの多い子供を比較すると外でよく遊ぶ子供の方が沢山の単語を知っていたそうです。一見逆の結果が出てもおかしくないような気はしますが、子供の方が沢山の人々と交わり、より多くの刺激を受け、より多くのものを見たり聞いたりする機会に恵まれています。従つてより多くの単語を覚えるのです。成長の過程においてより多くのよりバラエティに富んだ物や人に触れることはその人の語彙数を増やすだけでなくその人の世界を大きく広げ、その人を成長させてくれます。そしてそのような習慣をできるだけ小さい時から身につけることでその習慣を大人になつても持ち続けることができると思えます。

学園からのお願ひ

寄付金募集のご案内

今年度は、駿台甲府が創設されて三十五周年となります。今日に至るまでの間、保護者の皆様方をはじめ、地域の方など、多方面よりご支援をいただき、駿台の教育理念である「愛情教育」を日々実践し、教育環境の充実を図ってきたところであります。今後とも、更なる教育・研究活動の向上や、学習環境の整備拡充に関わる資金需要に対処すべく、個人及び法人・団体の皆様にご支援賜りたく寄付金を募集いたします。今年度は、グラウンドの人工芝化を計画しております。

本寄付金は、税務上の寄付金控除の対象となり、ご協力いただいた場合、個人の方は所得税法にて、法人の方は法人税法による優遇措置を受けることができます。

何卒趣旨ご理解の上ご協力賜りますようお願い申し上げます。

○目的 駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育振興寄付金

○使途 駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育活動・学習環境の整備拡充に要する費用に充てさせていただきます。

※詳細につきましては、本校HPをご覧ください。

小学校より

入学式辞挨拶

小学校校長 坂本宏行

新入生のみなさん入学おめでとう。今日から君たちは駿台甲府小学校の一年生です。先生たちもみなさんの入学を心待ちにしています。元気に小学校の生活を始めましょう。

今日は、君たちが、毎日駿台甲府小学校に楽しく通うのにはどうしたらいいのかわかるかな。大切な話をします。

一つめはお友だちと仲良くしましょう。お友達と仲良くすることは、学校生活を明るく過ごすために一番大事なことです。同じクラスのお友達、隣のクラスのお友達、上級生のお兄さんやお姉さんともお互いに挨拶をして、お話をしましょう。

二つめは、先生のお話をよく聞きましょう。先生のお話をよく聞くことは、君たちが賢くなるために一番大事なことです。先生のお顔を見て、何を話しているのかしっかり聞きましょう。

三つめは、自分のことは自分でしましょう。このことは、君たちが成長していくために一番大事なことです。制服を着ること、学校の支度をする、勉強すること、全部自分でしましょう。お父さんやお母さんに手伝わしてもらって少し減らしてください。

次に、君たちのお父さま、お母さまにお話をします。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学おめでとうございます。チャレンジング・スピリットと愛情教育を建学の精神とする駿

台甲府小学校の教育理念にご理解を賜り、本校を選んでいただきましたことにお礼申し上げます。

さて、駿小一期生が、素晴らしい進学実績を残し、今年の3月に、高校を卒業いたしました。一期生の姿を見るにつけ、改めて思うのは、他者のため、そして自分のために、精一杯生きることの大切さです。それを教えていくことが教育の究極の目的ではないでしょうか。本校では、教科の基礎力を付けることを重視しておりますが、単に点数を取ろうとか、上級生の課程を先取りしようとかいう発想では、真の学力は得られません。自ら考えること、豊かな情操を身につけること、常識をもって判断すること、こういったことがあれば、学力は自然と付いてきます。早熟より大器晩成を、つまり優秀な児童・生徒であることをより、尊敬される社会人になることをめざして教育を行います。

私たちは、新入生七十二名、一人ひとりを見ながら、その個性に応じ、愛情を持って教育に当たることをお誓い申し上げます。学校とご家庭が手を携えて、お子様を育てて行きましょう。

石川前校長より引継ぎ、四月より校長に就任致しました。本校では、十二年一貫教育が完成し、十三期生を迎えました。今後は、中長期的な視点に立って、児童・保護者のために尽力する所存です。

今後とも、保護者の皆様には、本校の教育活動に、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい出会いに

一学年主任 小西静穂

出合いの季節四月。満開の桜の中、小学校十三期生七十二名が入学しました。新しい制服やランドセルはまだ大きいけど、これからの学校生活で心も身体もびつたり成長していくことでしょう。私たち一学年教師四名も、子どもたちとともに過ごす中で、一緒に成長していける一年間にしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

入学式の当日、教室から入学式に向かう一年生の表情は、ちょっと緊張していましたが、しかし、一緒に入場してくれる六年生のお兄さんやお姉さんと手をつなぎ安心しました。入場を待つ間たくさん話しかけてくれた六年生のおかげで、表情は笑顔に変わり堂々と入場することができました。ありがとう六年生！

翌週から始まった学校生活は、何もかも初めてのことばかり。登校から下校まで、全てが学びの時間です。水筒を置いて、連絡帳を出して、宿題を出して、教科書を出して、ランドセルをロッカーにしまつて、次は…。一つ一つ学校生活のリズムを学んだ一週間でした。

新しい友だちともすぐに仲良くなりました。これからの学校生活は、どんなことが待っているのか、とても楽しみにしている一年生です。「チャレンジ！なかよし！ニコニコえがお！」を学年テーマとして、家族のあたたかいサポートと、学校では先生方や上級生に見守られ、たくさんのお話を吸収して、大きく成長してほしいと思っています。

桜色の春

二学年主任 有野真紀子

満開の桜の中、二年生に進級した十二年生七十五名。初めてのクラス替えを楽しみに、でもちょっと不安な気持ちで登校してきた始業式。それでも、校門で困っていた一年生に優しく接していた様子は、大人っぽく、制服姿も凛々しく見えました。立派なお兄さん・お姉さんです。

今年度も、十二期生のテーマは「学校楽しいね！」です。どんなことにも目を輝かせて取り組む子ども達。いろんな発見をしては、教師の所へ走ってきて話してくれたら、できることが増えるたびに「先生、できた！」と満面の笑顔で伝えてくれたり、素直で前向きな十二期生。そんな子ども達に、たくさん「楽しい」を伝えてあげたいと思います。友達と一緒に遊んだり活動したりする楽しさ。チャレンジしたことができる楽しさ。新しいことを学ぶ楽しさ。自分で考えて動く楽しさ。授業や行事や学校生活全体の中で、いっぱい「楽しい」を感じた分、子ども達は成長していきます。

桜の木の下で、舞い散る花びらをそっと両手で受け止めたり、花びら笛を鳴らしたりする子ども達。そばで見ている私達大人の心まで、ポツと桜色になりました。これからも、四季を感じ、自然の不思議を知り、生命を尊び、心も豊かに育ってほしいです。

そんな素敵な子ども達が、もともっと伸びていけるよう、私たち学年教員も知識や心を磨きながら一緒に学んでいきたいと思えます。一年間よろしくお願いたします。

高校より

― 祝・入学特集 ―

〔普通科〕

一学年 主任 嶋津由希
 入学式の翌日、4月8日にこの原稿を書いています。皆さんにとって初めての学年集会が先ほどありました。静かな雰囲気をつくりだし、真剣な眼差しで先生方の話を聞く様子を見て、ひとりひとりに大きな可能性があるのだと強く感じています。皆さんが今の気持ちを忘れなければ、3年後、大きく成長していると確信します。ただし「今の気持ちを忘れずにいる」ことは容易なことではありません。

一年A組 担任 益田耕治
 新学年・新学期は何よりも生活習慣の確立が重要だと感じています。「やらされる」から「進んでやる」への学習習慣はもろろんの事ですが、早朝型への生活のリズムの確立、さらには、聞く態度の醸成、などなど普段力の向上の基礎となる「躰」の指導を保護者の皆さんと一緒に実施していきたいと思えます。1年間よろしくお願ひいたします。

一年B組 担任・副主任 高橋英一
 駿高全体を流れる雰囲気の特徴は、「やる気にあふれた生徒」・「規律ある自由」・「お互いを認め合う共存の精神」だと思えます。そういった良き伝統を壊すことなく受け継ぎ、はじめをつけた生活を実践する中で、有意義な3年間を過ごしてもらいたいと思えます。「これから出ていく社会の中でいかにして自分を生かしていくか」ということを常に命題とし、確実に力をつけていく努力を期待します。

一年C組 担任 若林秀則
 ご入学おめでとうございます。高校生は

大人への自立の第一歩目であり、自身も驚くほど大きく成長できる時期です。自分はこの程度、と枠にはめたりせず、志を高くもって学校生活を送って欲しいと思えます。3年間の高校生活が充実した素晴らしいものになるよう、私たち教職員も一丸となって最大限のサポートをしていきますので、よろしくお願ひ致します。

一年D組 担任 笹原正雄
 CMソングのフレーズにこんなのがありました『あの国あの街あのことば、広い世界の片隅で心と心を触れ合った旅の瞳がわらつてる♪』何十年も前の歌詞なのに何故か忘れられず、今もふとした拍子に口をついて出ることがあります。何もことばを発しない『旅の瞳』なのにそれをしつかりと心で受け止める人も確実にいることを信じて黒板を背にしようと思えます。

一年E組 担任 池田健太郎
 駿台甲府高校は今年で三十五周年を迎えました。この記念すべき年度に入学した三十五期生と共に、文武共存の学び舎で生活を送れることを大変嬉しく思っています。この喜びを誇りへと発展できるように「今」の大切さを伝えながら、三年後の飛躍につながる強い強い助走を期待して、共に成長したいと考えています。宜しくお願ひ致します。

一年F組 担任 小高淳
 入学式の日。新しい仲間たちと出逢いました。初めはとまどっている様子が見られましたが、2日もするとほとんどの生徒たちは打ち解け、楽しく学校生活を送っています。この学校には、県内から良い仲間が集まってきています。お互いを認め合い、良い関係を作っています。必ず自分のこれからの人生にとってプラスになるはずですから、この1年、良い人間関係を築きながら、有意義に過ごして欲しいと思えます。ご入学おめでとうございます。

一年G組 担任 浅川直哉
 入学おめでとうございます。この学び舎に飛び込んできた生徒たちを見てみると、自分が高校生になった頃の緊張感を思い出します。何をするのが正しいのか、どうやっていくのが正しいのか、正しさばかりを追求していた自分がいました。しかし、今も覚えているのは失敗した後に訂正した時のことばかりです。たくさん挑戦と失敗を繰り返しながら成長して欲しいと願っています。よろしくお願ひ致します。

一年H組 担任 渡辺ふみ
 ご入学おめでとうございます。入学式の様子、すでに2回行われた学年集会の様子を見ますと、今年の1年生は人の話を聴く態度が非常に優れている素直な子どもたちです。素直な子どもは伸びます。今後の3年間でのような伸びを見せてくれるか、とても楽しみです。ご家庭と力を合わせて、子どもたちを支えていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

一年年副担任 浅川啓太
 ご入学おめでとうございます。満開の桜の下で新入生(35期生)の入学を見守りましたが、新入生の高校生活スタートと同時に、私の教師生活もスタートを切りました。一年目の今年度は、様々な面において手探り状態ですが、一歩ずつ確実に前進していきたいと思えます。初心を忘れずに日々勉強し、新入生と共に成長していきたいです。よろしくお願ひ致します。

一学年副担任 筒井揚介
 ご入学おめでとうございます。歴史意識が希薄になりつつあると、痛感しています。「世界史」や「現代社会」を通して、過去の呪縛から解放されて自由に未来を展望できる人物を育てたいと、考えています。未来を考える「ヒント」が、過去にはたくさん詰まっています。

一学年副担任 永井郁夫
 2年ぶりの1学年になりました。数学担当です。なるべく生徒の気持ちになつて、例年入試問題を解くように続けていますが、今年の入試問題もなかなか難しい問題も多くありました。未だに私でも歯が立たない問題もありますので、生徒はもっと大変です。生徒が何とか1問でも多く解けるようになるように頑張りたいと思えます。

一学年副担任 名取景子
 ご入学おめでとうございます。いよいよ始まった高校生活に期待も不安もいっぱいだと思います。まずは、早めに生活や学習のリズムを掴むことが大切だと思います。過ぎてみればあつという間の高校3年間で充実したものになるように、いろいろなことにチャレンジしていきましょう。よろしくお願ひ致します。

【美術デザイン科】

一学年担任 益田旬古
 ご入学おめでとうございます。高校入学は、人生の中でも大きな節目だと思います。その中で縁あつて担任を務めさせていただきますことになりました。努力することの大切さを育てるとともに、前進していける環境・雰囲気づくりを心掛け、安全で安心な高校生活を送ることができるよう全力でサポートしていきたいと思えます。宜しくお願ひ致します。

一年副担任 斉藤裕一
 入学式での新入生の表情は、これから始まる新しい生活に期待する思いが溢れていたように感じました。環境が変わつて最初の数ヶ月というのは、人間関係や生活習慣が確立するまで何かと気苦労の多い時期です。ご家庭で疲れを見せることもあるかもしれませんが、入学当初の前向きな明るい表情がいつまでも失われないように気を付けてサポートしていこうと思っています。

新任異動の先生方

〜ひとこと挨拶〜

小・中・高指導監 石川博

3月まで、小学校の校長でした。素晴らしい保護者の皆さん、有能な先生方、そして何より素直な児童諸君のおかげで、楽しい4年間でした。ありがとうございました。

4月からは塩部に席があり、高校の国語の授業を行います。同時に一貫教育の推進や保護者・教員のご相談にも与る所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

小学校副校長 内藤真一

4月から小学校で副校長として働くことになりました。新しい環境に飛び込んで身も心も若返った感じがします。唯一辛いのは、数学を解く暇がないことです。早く422人の児童の顔を覚えたいと思っています。児童・保護者の皆さん、よろしくお願ひします。

【新任編】

高校(進路) 岸川直紀

出身は山口県下関市です。この度、進路指導担当教諭として東京の駿台予備学校から参りました。駿台に勤めて30年になります。その間様々な受験生の相談に乗って参りました。その経験が少しでもお子様のお役に立てればと考えています。どうかよろしくお願ひいたします。

高校普通科 藤川泰彦

担当教科は理科です。生徒が理科に興味を持ってもらえるような楽しくてパワフルな授業をしたいと思っています。授業以外にも、部活動などの指導も積極的に行っていきます。早くこの学校に慣れて力を発揮していきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

高校普通科 浅川啓太

今年度より駿台甲府高等学校で国語科を担当することとなりました。高校3年間お世話になった駿台甲府に、教師として戻ってくるのが出来たことを嬉しく思います。「チャレンジング・スピリット」を胸に、生徒の自己実現を全力でサポートしていきますので、よろしくお願ひ致します。

中学校 原大介

昨年度まで茨城県の学校に勤務していましたが、ご縁があり、今年度より中学校にやってきました。神奈川県出身のため、道がわからず迷子になることがあります。新しい環境に慣れるように努力している最中です。今までの経験を生かし頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。

中学校 吉田脩人

ご入学おめでとうございます。3月に大卒を卒業し、この山梨の地に戻ってきました。駿台甲府高校では28期生でした。高校時代の恩返しとして、今の生徒たちにひとつでも多くのことを教えられたらいいな、と思います。最年少なので、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

中学校 内藤伯哉

教員として、また社会人として1年目であり、未熟者かと思えます。先輩方から多くを学び、完熟者になれるよう頑張りたいと思います。生徒の成長を見守りながら、自分自身も成長しようと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

中学校 武川公貴

保健体育を担当します。私はこの駿台甲府中学校では4期生、高校では20期生でした。私自身、駿台で学んだ6年間の中学生を左右するほどの出会いや、貴重な経験をする事ができました。教壇に立つにあたって、生徒には学問を学ぶだけでなく、

部活動や友人との繋がりの中で、何かかけがえのないものを学び得てもらえるよう、精一杯サポートしていきたいと思えます。

【異動編】

中学校 鶴田和也

本年度、美術デザイン科から中学校に異動となり、三年B組の担任となりました。初めてのことが多く、新鮮な気持ちで毎日過ごせることに感謝しています。生徒の事を第一に考え、チーム駿台の一員として様々な事にチャレンジしていこうと考えています。今の気持ちを忘れず、生徒と共に向上心を持ち、中学校生活を充実した時間にしていきます。宜しくお願ひ致します。

中学校 羽澤健

『できる』と『思っている人』と『できない』と『思っている人』は他の人から見たら、見た目はそれほど変わりません。だったら『できる』と『思っている』が、ワクワク・ドキドキする時間を過ごせると思っています。生徒の可能性を開花できるように教育をしたいと考えています。まずは自分から「自分も空はとべるんじゃないかな？」と本気で信じていることから始めたいと思います。

中学校 中込範彦

4月より中学校に赴任し、中学1年生の学年主任を担当することになりました。昨年度まで高校3年生を担当していたので中学1年生がとても幼く感じています。中学校は初めてではありませんが、新たな気持ちで指導していきたいと思っています。

高校普通科 益田耕治

このたび、数年ぶりに高校での勤務となりました。私が働いていた頃は北館があり、

職員室はプール跡であり・・・とこの数年で色々変化があり、その何もかもが新鮮で、「初心」を思い起こさせる毎日です。この良い緊張感を保ちつつ、初心を忘れず、精一杯、生徒達をサポートしていく所存です。よろしくお願ひいたします。

高校普通科 小高淳

駿台甲府中学校から異動してきました。昨年までの9年間中学校で勤務し、10年目の今年初めての高校勤務となりました。昨年は学年主任として中3に関わり、常に伝え続けてきたことは『先を見る』ことでした。高校ではさらに強く意識していかなければなりません。自分の人生に大きな影響を及ぼすのが、この高校3年間だからです。これから様々な試験がありますが、それらはすべて先に繋がっているというを意識し、しっかりと乗り越えて行って欲しいと思います。私も全力でサポートしていきますので、よろしくお願ひ致します。

高校普通科 坂本哲雄

この度、中学から高校に異動になりました。3月まで中2の担任でしたが、一気に高3の担任に任命され、責任の重さを実感しています。少しでも早く高校勤務に慣れるよう努力・精進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

高校美術デザイン科 斉藤裕一

入職から六年間中学で働き、三月には担任として卒業式を迎えることができました。また、普通科にも出講します。現高3生は中学時代に深く関わった生徒が多いので、気恥ずかしい気持ちがありますが、再び少しだけ関わられることを嬉しく思っています。新しい環境で、生徒と信頼関係を築き努力していこうと思います。

中学校より

〜新年度挨拶〜

中学校副校長 斎藤昌一

春の日差しの中、輝く新緑が春の喜びをいっぱい表しています。新たな新入生を迎え、新年度が始まりました。職員室前の桜が咲く中、何もかもが真新しい装いの新入生を迎えることはとても嬉しいことです。今年度は、生徒が日常の学校生活で安らぎを感じ、学習に専念できることを心掛けていきたいと思っています。そして、生徒一人ひとりと話をしながら、「将来の夢」を聞き、それに向かって日々の学校生活を送り、努力する中から得る喜びや辛さ、楽しさなどを教え伝えていきたいです。また、物事を成し遂げるには強い「志」をもつことが大切であり、それを築く手がかりとなる多くの友達を作り、彼らといっぱい話をしましょう。さまざまな話をしたり聞いたり、友達のお互いに成長していきましょう。今こそ、一念発起、「将来の夢」に向かって「志」を立て、夢を夢のまま終わらせないために、第一歩をいっしょに踏み出しましょう。

教務主任 内山晶夫

満開の桜に祝福されてスタートした新年度も、早2週間程が経ちましたが、気持ち新たに一生懸命日々の学校生活を送っている生徒たちの姿を見ていると自然に力が湧いてくるのを感じます。

さて、昨年末に政府の教育再生実行会議が「人物本位」の大学入試への改革を打ち出しました。「あと数年後に『オオカミ』が来る！」とまで言われるその大学入試とは、①現行のセンター試験を改変し、成績を点数ではなく、上位から下位まで何段階かにランク分けして表示する②集団討論などを含む面接、論文、高校の推薦書、能動的・主体的に取り組んだ多様な活動などによって選抜する(多様な活動とは生徒会活動、

部活動、インターシシップ、ボランティア、海外留学、文化・芸術活動やスポーツ活動、大学や地域と連携した活動などを想定)

③具体的な制度設計を議論し、5〜6年後の実施を目指すというものです。現中1・2年生が臨む大学入試ですが、まさに勉強一辺倒では無い、駿台小中高が実践する文武共存の諸活動によって得られる付加価値が大きき力となると確信します。保護者の皆様のご期待に沿えるよう頑張りたいと思います。本年度もよろしくお願ひ致します。

生徒指導主任 山口倫明

始業にあたり、この一年間で大人への階段を登ることを期待して新年度のあいさつしたいと思います。

まず、「あいさつの励行」です。気持ちいいあいさつは、すべてにおいての第一歩です。その人の第一印象にすぐ残ります。一日を明るく元気に過ごすための基本にして欲しいです。

次に、「マナーの遵守」です。気持ちよくお互いが生活するためには、一人ひとりが、相手を思いやる言動をとることが大切になります。受け手が感じることはその行為をしてしまった人が感じることに一致するわけではありません。自分本位にならずに常に一呼吸を置いて、相手の気持ちを慮ることのできる生徒になって欲しいと思います。最後に、「話を聞く態度」です。全校集会や学年集会の場で、下を向いている生徒をよく見かけます。すごく残念です。「人の話を耳だけでなく、目で聞く」ということを聞いたことがあると思います。以前は意識していた人も年を重ねていく中で疎かにしてしまいがちです。再度自分を見つめ直す中で小さいことですが、意識して取り組んでくれることを期待しています。

第一学年主任 中込範彦

昨年度まで駿高で進路指導主任、水泳部顧問をし、高校3年生を教えていました。駿中は3回目の赴任ですが、6年間のギヤ

ップ、中高の違いを改めて感じています。ヘルメットをかぶり小さな体で一生懸命自転車をこいでいる姿、教室内でみんなでお弁当を食べている姿など、どれも新鮮でかわいらしく思います。そんな駿中22期生が3年後に高校に進学するときには駿高生として恥じない生徒になるように、これまでの経験を生かして指導していきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。また、高校水泳部が今年も関東大会、インターハイに出場するような活躍をすることを祈念しています。

第二学年主任 永山一宏

昨年、小学校を卒業したばかりだった21期生たちも、いよいよ駿中の中核となる年度が始まりました。と同時に、第一チームも締めくくりの年となるわけで、年度末の修学旅行を目指して、学習面・生活面において充実した年とするべく学年団一同頑張つて行きたいと思っています。

先日目にしたビジネス雑誌の記事で、駿台予備学校の大島保彦先生が「中学生になったら『ゴロンとした粗削りな学力』をつけてやりたい」と書かれていました。子どもはいろいろな困難を抱え込み、精一杯それらに取り組むことで「ゴロンとした学力」を身につけることができ、なおかつ、自分の世界を広げ、何かに夢中になることによって集中力を養えば、そのゴロンとした学力や何かに集中した経験が受験の最後で生きてくるということです。21期生諸君にも、学習はもちろんのこと部活でも趣味の分野でも多くのことに集中して取り組むことで、そんな力を身につけてほしいと思っています。

第三学年主任 柿澤喜英

20期生中学校最後の年、そして第2チームが始まりました。生徒たちは、生徒たちなりに自分たちの立場を自覚し、中学校最上級生として振舞おうとしているようです。第1チームの2年間に学んだたくさん

とを活かして、思考や行動レベルをより向上させて、自分の責任を果たし、さまざまな活動に悔いの無いように日常生活や学校生活に積極的に取り組ませ、将来の自己の実現に向けて、高校にスムーズにつなげていきたいと思っています。

生徒の成長に関われることに喜びを感じ、生徒から決して目を離すことなく、学年団も奮闘します。新年度の学年団は、担任に鶴田・塩津、副担任に出澤・原先生を迎え、平均年齢が非常に若くりニューアルしました。改めて「One for All, All for One」(一人はみんなのために、みんなは一人のために)で頑張りますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

新任の挨拶

クリストファー・マギル先生

The future is foreign

Christopher John Magill

The future is a place we've never been to. As such, it can be pretty scary. Last week I watched the beginning of a new school year.

I'm sure the new First Grade had no idea that I was a lot more apprehensive than they were.

As a rule, adults worry more about the future than do children. Despite their new environment, new uniforms, new regulations and new faces, the sense of excitement was palpable.

School is where the unknown becomes familiar, and challenges turn into achievements. Whatever we confront this year and in the years ahead, we should never forget to learn from children, instead of just teaching them!

『気心』へ向け出陣！

三学年主任 山岸なぎさ

毎年恒例の「信玄公祭り」、今年は四月四日から六日まで甲府市中心部を会場に行われ、九万四千人の観客動員数を記録したそうです。その中でもメインイベントである武田二十四将を模した甲州軍団出陣は、千五百人もの軍勢が川中島に向け出陣する様子を見ることができました。

転入生一名を迎え、七十六名となった三学年。昨年までの三クラスから今年は、二クラスとなり、各クラスの数も三十八名と増えました。そこで、どんなふうにするか、この勇猛果敢な出陣の様子を見たときに私の心は決まりました。

今年の三年生の学年目標は『気心』です。仲間と仲良くし、みんなが気持ちいい学年にしようという思いを込めました。大きな目標である『気心』を達成するためには、小さな目標が必要です。そこで、子どもたちに『やる気・元気・本気』という三つの「気」をプレゼントしました。といってもただ伝えるだけでは面白くありません。気分は甲州軍団改め駿小軍団といったところでしょうか。これから一年間大きく成長できるように一致団結するために、子どもたちと学年教員団全員で腕を高く突き上げ『やる気・元気・本気』と大きな掛け声で気合いを入れ、いざ出陣です。

三年生では、学習面でも生活面でも新しいことが始まり楽しみな反面不安もあるかもしれません。どんなときも七十六十三人の「気」が一つとなれるよう心を育てていきたいと思えます。宜しくお願い致します。

『みんなでつくる』四年生

四学年主任 田中愛子

昨年度三月、小学校生活の有終の美にふさわしい感動の卒業式を終え、無事七期生を駿中へと送り出しました。感慨深い思いで過ごした学年末から三週間が経ち、いよいよ心新たに新年度の幕開けです。始業式、四年生との出会いの日でした。大きな声で弾むように校歌を歌う姿を見て、心が躍りました。この元氣な十期生があと三年間でしっかり力をつけ、自信を持って卒業の日を迎えられるように仕上げていかななくてはと、大きな期待と責任も同時に感じました。四年生という学年は、高学年の仲間入りをする重要な一年となります。他の学校との交流がある甲府市の連合音楽会や初めての宿泊体験学習（飯盒炊爨）、1/2成人式、本格的な新聞作りなど、他の学年にはない大きな行事を軸に、生活面・学習面ともに仲間と鍛え合い、力をつけていくチャンスが多くある学年です。そこで、このチャンスをモノにするためにも、今年の学年テーマは「みんなでつくる」としました。これまでの自己中心的な考え方（周りが見えない幼さ）からの脱却を図り、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神を貫きながら、みんなで乗り越える困難、みんなで作る喜びや成功、そこから身につく本物の力、学年の団結力など、日々高めながら十期生らしい結果を一つ一つ作り上げていこうという意味が込められています。学年開きの際には、このテーマを略して「みんなつく」と呼び合い、いつでも仲間を意識しながら頑張っていこうとみんなが誓い合いました。四年生が、大きな飛躍の年となるよう学年教員一丸となってサポートしますので、よろしく願います。

仲間を大切に

五学年主任 山下潤

昨年度に引き続き、駿小九期生を担当することになりました。五年生になると校舎が変わり、窓から見える中学校を少しずつ意識し始めます。今年度は、新たな仲間が一名加わり、気分一新で良いスタートを切ることが出来ました。

生活面では、「勉強も運動も大事だが、一番大切なのは仲間。」の合言葉を今年度も継続していきます。仲間を大切にすることは、まわりから大切にされることや、勉強だけでなく、社会で通用する人になれないことなどを話してきました。良き仲間と出会うと、共に高まり合う事が出来ます。九期生の中にも少しずつ仲間を大切にする意識が芽生え始めていることは日々の生活から実感しています。今年も日々の学校生活の中で、仲間の大切さに気付けるような活動をたくさん仕組んでいきます。

学習面においては、より教科担任制に移行した授業形態となりました。今まで担任が行っていた国語と、三クラスで展開していた算数も専科で行い、より教育効果を高めていきます。子どもたちも最初は戸惑いがあったものの、今では少しずつ慣れ、集中して授業を受けています。子どもたちの学習意欲の高さには目を見張るものがあります。授業を通して失敗を恐れずに何事もチャレンジする精神を更に高めていきます。子どもたち以上に私たち教員も研鑽を積んで授業を行います。

最後になりましたが、今年度も保護者の皆様の温かいご理解とご支援を引き続き宜しくお願い致します。

最高学年ということ

六学年主任 奥村貴子

チャレンジング・スピリットが豊かな駿小の児童を見てみると、毎日が楽しく、非常に魅力的で、思わずこちらも熱くなってしまう瞬間が数多くあります。新学年スタートからさっそく、その姿を六年生が見せてくれました。駿小を縁の下の力持ちのごとく下から支えます。そして駿小を六年生全体で上からも引っ張っていきます。どうか最高学年の自分たちに期待していただき、「と、始業式の決意表明で発表してくれた児童を筆頭に、八期生の六十八名が初日から下級生のお手本になるぞと廊下の歩き方から考え行動にうつしている姿を見ることができました。また、学級、委員会、児童会、縦割り活動のリーダーに立候補する児童も多く、自分たちの手でこの駿小を引っ張っていこうとする強い意欲を感じることができました。さっそく、児童会執行部を中心に、一年生を迎える会や児童総会に向けた取り組みが始まっています。

今年の六学年のテーマは「発揮」です。八期生という語呂合わせでつけたようなテーマでもありますが、小学校生活最後に八期生としての力を発揮してほしい、何事にも力強く、全力で取り組んでほしいという願いを込めました。

成長することを喜びと感ずる、チャレンジすることを楽しいと感じる、人のために活動したいと願う、自分の能力を高めようと努力をする、そんな子ども本来の動力の先頭にたてるよう、最高学年教員一同、新たな気持ちでこの一年、学年を引っ張っていかうと気を引き締めております。どうぞ、今年度もよろしく願います。